

韓国選手躍進の一端を見た

専修大学社会体育研究所では毎年一回、大学をはじめとする全国の教育・研究機関やスポーツ・体育・健康関連団体・施設等を訪問し、共同研究会の開催等を通じた研修会を開いている。本年度は1月21日から2泊3日の行程で、スポーツにおいて最近特に世界的な躍進を遂げている韓国に渡り、崇實大学、韓国体育科学研究所(KISS)、国民体育振興公団(KSP O)、および泰陵選手村を訪問し研修会を開催した。

1日目は、崇實大学を訪問。生活体育学科(シム・ソンプ学部長)、国民生活体育研究所(チョン・テジョン所長)との合同研究会を開催し、お互いの研究活

社会体育研究所・韓国研修会

寄稿 富川 理充 商学部准教授



▲ 崇實大学生生活体育学科・国民体育研究所との合同研究会

多角的な支援システムが充実

動の実践現場と研究に加え、スポーツ政策・戦略との連携を図る。ハを立案する人文社会科学系と目から鱗の思いだった。また、一般の国民にも広く運動を推奨しており、運動参加者や効果が上がった者にインセンティブを与える施策なども紹介され、世界から日本の現状を改めて考えさせられる絶好の機会となった。



▲ 懇親を深めた両大学メンバー

少年少女レスリング教室と社会体育研究所が共同企画

「体力測定&科学セミナー」 専修大学少年少女レスリング教室(Team BIS)は、社会体育研究所との共同企画で「体力測定&科学セミナー」を開催、幼児から中学生までのジュニアレスラー(約50人)とその保護者(約40人)の約90人が参加した。

この企画は、社会体育研究所員の渡辺英次商学部准教授と相澤勝治文学部講師を中心に実施、本学レスリング部員および外部スタッフの協力も得て行われた。

体力測定に臨む子どもたち 体力を客観的に評価出来ることは、今後のトレーニングに有益な情報となる。などのコメントが寄せられた。

「グローバル化と企業リスク」テーマに

上田研究科長、ホア院長らが日本とベトナムの事例を講演



▶ 講演するホア院長

商学研究所(渡辺達朗 本企業の事例)が3月2日、神田キャンパスで開催された。大学院商学研究科の上田和利科長(商学教授)、同ビジネススクールのトラン・チバン・ホア院長、レ・チ・ラン・フォン研究科長の3氏が講演。約30人が出席し、熱心に聴講した。

上田研究科長は日本企業の復元力をテーマに講演。建設機械メーカーのコマトナム企業が手薄な分野

2日目は、KISS 韓国選手の世界での活躍の同研究所は専修大学スポーツ研究所に名称が変わる。

最後に、ホア院長がベトナム企業、経済が抱える課題を解説し、「現在のベトナムは政府による経済改革が進み、産業構造が変化しています。ベトナム企業が手薄な分野

第2期生31人が修了

本学と川崎市が共同開講するKS(川崎・専修)ソーシャル・ビジネス・アカデミー第2期生31人の修了式が、2月18日、サテライトキャンパスで行われた。

KSソーシャル・ビジネス・アカデミー

本学出身の若手研究者の海外派遣などを目的に設けられている2012年度相馬学術奨励基金による海外研究員に角田真紀子経済学部講師(平9経済)が決まった。

徳田アカデミー長(左)から履修証明書が授与された



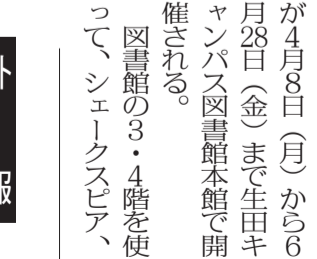
▲ 徳田アカデミー長(左)から履修証明書が授与された

相馬学術奨励基金海外研究員に角田真紀子経済学部講師(平9経済)が決まった。



廣瀬 正氏(ひろせ・ただし)元法学部教授

本学出身の若手研究者の海外派遣などを目的に設けられている2012年度相馬学術奨励基金による海外研究員に角田真紀子経済学部講師(平9経済)が決まった。



前田 金五郎氏(まえだ・きんごろう)名誉教授

2月21日、92歳で死去。1966年から在職。91年定年退職。専門は「近世文学」。

専修人の新しい本

日本の危機 著者の見るところ、日本の政治と社会は1970年前後に大きな転換点を迎えており、この時期に、経済的拡大から生活の質的充実へ国民的目標を転換する必要があります。消費増税とともに合理的で公平な徴収を保障する制度改革も必要である、子育て支援の強化が不可欠、学校教育では指導的人材が育成されなければならぬ、など、数々の警世の論に今こそ耳を傾けたい。(東洋経済新報社 本体1800円+税)

正村 公宏著

図書館春の企画展「入展4月8日から」

図書館春の企画展「入展4月8日から」